

△その94

地域文化論

うだつの町並みを復興する
徳島・脇町図書館を設計して

重村

力 ▼建築家・神戸大学講師

まちづくりに関わることの樂しみの一つは、これが本当に動き出した時に、どんどんと思わぬ方向にまで發展していくさまを見守ることにある。生みの苦しみもあるが、この様な状態になると、ちょうど植物が根付いて、初夏に日に日に枝葉が繁っていくのを見守る樂しみに似ている。

私がいるか設計集団（海岸通・海岸ビルディング内）の仲間達と共に設計した、徳島県脇町の脇町立図書館も、そのようなまちづくりを誘発する建築となつた。脇町は昔、吉野川の水運と藍の取引きで栄えた町で、本瓦・白漆喰・骨太の格子の町家の建ち並ぶ町並みが、忘れられたように遺されてきた。何よりも人々の目を魅くのは、家の軒の上に独特な形をした

上／脇町図書館 内部一伝統のモチーフと、地場の材料によるモダンな内部空間

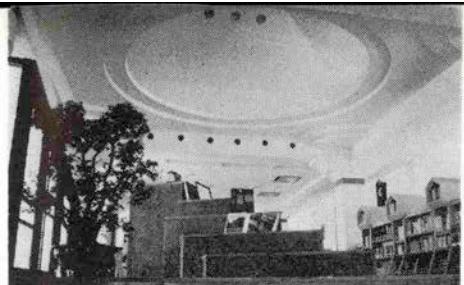
下／脇町図書館の路地から
(右)新設部分(左)保存部分

「卯建」があり、これが町並みとして、連なつていることである。10年前、明石工専の渡辺宏助教授（建築史）が、学術調査をして以来、このうだつの町並みは徐々に町の内外の人々に、その価値が知られるようになってきた。

二年程前、私は町の人々とこの町並みを遺し、これを活かすことにより、まちづくりを進めることを話していた。そんな中から、町並みの中央部にある土蔵群の並ぶ農協の敷地に図書館を含んだ文化センターをつくる計画が生まれてきた。この敷地にある土蔵群や、祠や、背の高い土塙は、一つ一つ見た時に、例えば国宝の様な価値の高いものではない。だが、脇町の町並みが、絵に描かれ、写真に撮られたりする時、つまり人々が心に思い浮かべる時、いつもその中の欠かせぬ要素として入っている大切な建築であり、人々の思い出の残る場所である。

これらの古い建築を残せる限り残し、活かせる限り活かして、どうにか近代的な図書館・ギャラリー・集会室の要求と両立させることは出来ないか。このことにみなで、知恵をしぼった。傾きかけた蔵は、ひき起こされ、漆喰が補修され、新設の部分と結んで内部を利用することに決まった。

私は、町並みと接する部分では、伝統的な意匠の再現を試み、街区の奥まった部分や、図書館の内部では、伝統的な意匠のモチーフを、現代的なデザインへと転換することに苦心をした。工事がはじまる、瓦や、漆喰や、青石などの、地場の材料が、またこれら群衆や、祠や、背の高い土塙は、一つ一つ見た時に、例えは国宝の様な文化センターをつくる計画が生まれた。これらの材料や、技術が、近近代的な性格の施設に使わなくなつて久しかった。だから、みんな意気に感じて仕事をやり通した。この建築が建ち上ると、町の人々が本当にろこんで使ってくれるようになつた。そればかりか、新しく建つ大型の公共的施設、ショッピングセンターや、中学校なども、どんどんとこの脇町様式を採用して建てられるようになったのは望外の发展であった。町のアーデンティティーというものが、全国的に消え去り、凡庸な町に変わっていくなかで、脇町のこのような試みと動きに、協力することができたのは、建築家として本当にうれしいことである。



井植文化賞

報道出版部門



中平 邦彦

「バルモア病院日記」著者
昭和13年青屋市生まれ。同志社大学卒。現在神戸新聞社論説委員。4年前前バーモア病院の三宅廉院長との出会いを機に、現代社会の病根が出現医療にあると痛感し本著を執筆

戦後、日本の復興と繁栄に大きな足跡を残した三洋電機株式会社の創設者、故井植歳男氏の遺志によって昭和44年11月に設立された財団法人「井植記念会」が、兵庫県在住または兵庫県にゆかりの深い人のなかから、めざましい活躍をされた人を受賞の対象としてその功績を讃えるとともに、地域社会のより一層の発展に寄与したいと考え、この『井植文化賞』6部門（本年より国際交流部門を新設）を設定しました。今回で第11回を数え、各分野の評論家、学識経験者などをもって部門ごとに構成される選考委員会によって、次のように決定しました。

国際交流部門



加藤 一郎

神戸日独協会名譽会長・神戸大学名誉教授

明治37年名古屋市生まれ。京都大学獨文科卒業

後、神戸商業大学（現神戸大学）のドイツ語講師を経て甲南大学へ。その間、日独協会の副会長、会長を務めた。昭和33年から2年間、ハンブルグ大学の交歓教授として教壇に立ち、昭和50年に西ドイツ政府より第一級功労十字章、同51年には勳三等に叙せられる。翻訳も多数。

スタジオ TODAY

ホットに語ろう

ラジオ関西同番組制作スタッフ代表・プロデューサー

昭和54年にスタート以来軽妙な司会と多彩なゲストで多くのリスナーから共感を博す。毎回親しみ安いテーマを扱いながらも、現代人がかかるえる今日的問題に鋭く迫る。

昭和32年10月、神戸新聞社が、兵庫県民の福祉と郷土文化の育成・発揚の拠点として設立。全国の文化センターの草分け的存在。野外教室等の新しい講座項目も早くから取り入れ、昭和58年からは隔年で海外文化使節団も派遣、国際交流にも努めている。

地域活動部門



(社) 神戸新聞文化センター

理事長・小林幸和

昭和41年より始まったアクティビティコンサートは、年2回、3月と7月に定期的に開催されており今年で52回を数える。地域音楽文化の向上と新音楽家発表の場として大きな役割を果たしている他、その収益金を社会福祉に用いるなど、収益事業としても高く評価されている。

科学技術部門



岡田 安弘

神戸大学医学部教授

昭和41年より始まったアクティビティコンサートは、年2回、3月と7月に定期的に開催されており今年で52回を数える。地域音楽文化の向上と新音楽家発表の場として大きな役割を果たしている他、その収益金を社会福祉に用いるなど、収益事業としても高く評価されている。

文化芸術部門



神戸灘ライオンズクラブ

会長・政田義徳

昭和41年より始まったアクティビティコンサートは、年2回、3月と7月に定期的に開催されており今年で52回を数える。地域音楽文化の向上と新音楽家発表の場として大きな役割を果たしている他、その収益金を社会福祉に用いるなど、収益事業としても高く評価されている。

社会福祉部門



エリア会

神戸アドベンチリスト病院を中心に、地域分譲型老人ホームを有野台に結成。単なるボランティア活動だけではない、老人自らの手による新しい形の老人ホームを創り出している



要約筆記サークル

OHP こうべ

昭和58年より、後天性難聴者で、手話が出来ない人のために、オーバーヘッドプロジェクターを利用して、会話を字にして見せると言ったボランティア活動を続けています。

■ 第11回井植文化賞
文化芸術部門

地域音楽文化の発展と
新人育成に貢献した
神戸灘

ライオンズクラブ

★選考委員

柴田 仁

▲音楽評論家▼

出谷 啓

▲音楽評論家▼

小石 忠男

▲音楽評論家▼



“文化芸術部門”にライオンズクラブとは、意味がわからぬ人もおられるだろう。当然である。しかし音楽に貢献したという視点から眺めると、神戸灘ライオンズクラブは、地味ではあるが本当にすばらしい仕事を続けてきたと思う。このクラブは一九六六年三月の第一回から数えて、現在まで二十二年間、五十二回に及ぶアクティビティコンサートを開催し、神戸を中心とした地域音楽文化の発展に非常な貢献を続けてきたのである。

具体的にいうと主として新進演奏家に権威ある発表の場を提供し、それとなるべく出演者に負担をかけない方法で一貫してきた。それが音楽家の大きなアクトティビティだが、その収益金を社会福

祉のために用いるなど、アクティビティコンサートの開催を巡ってさまざまな実効を生み出してきたことは高く評価されねばなるまい。また第三十回コンサートを記念して神戸灘ライオンズ音楽賞を設け、新人の育成に寄与している。

こうして五十回を越えるコンサートの開催は、兵庫県と神戸の音楽界に確固とした歴史を築いた。ここで紹介された演奏家のなかには、著名な国際コンクールに入賞し、あるいは権威ある賞を受賞するなど、第一線で活躍している人も多い。このように音楽界に継続的に貢献してきたライオンズクラブは、わが国ではほかになく、この受賞を機に音楽文化の発展に、今後ますます力を添えて欲しいと思う。

▽小石忠男▽

●受賞者メモリアル

1. 河口 龍夫<現代美術>
2. 山田 幸平<作家>
3. 横井 和子<ピアニスト>
4. 荒木 高子<陶芸家>
5. 多田 智満子<詩人>
6. 田原 富子<ピアニスト>
7. 昇 稔和<詩人>
8. 安水 武春<画家>
9. 原 勝延<指揮者>
10. 山澤 栄子<写真家>

●選考経過
文化芸術部門は、今回は音楽部門からの選考となる。

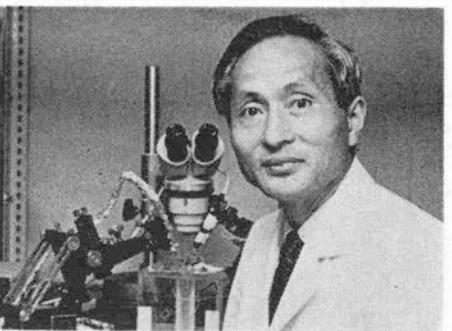
まず個人の候補としては、声楽の小村亮三、坂本環、作曲の大前哲、徳永秀則、フルートの持田洋、リコーダーの北山隆。そして団体では明石市民オペラ、神戸中央合唱団、土曜会などがあがつた。選考の内容は過去3~4年の活動や将来性という点から検討されたが、音楽部門の範疇として音楽家のみならず音楽活動を支える人に目を向けても、という方向が考えられた。そこで候補にあがつたのが毎年2回アクティビティコンサートを催している神戸灘ライオンズクラブ。昭和41年から計52回にわたるコンサートを開催しており、ライオンズクラブの一石五鳥の事業のひとつとして大きな成果をあげている。

また神戸灘ライオンズクラブ音楽賞を設け、新人音楽家を育成している点からも、今回は神戸灘ライオンズクラブに決定した。

■ 第11回井植文化賞
科学技術部門

脳機能の生理学的
解説を評価して

岡田安弘



★選考委員
水野 進
△神戸大学農学部長▽
溝井 泰彦
△神戸大学医学部長▽
松本 治彌
△神戸大学工学部長▽
真鍋 正志
△神戸新聞論説委員▽

現在、脳の科学（ブレインサイエンス）は最も注目されている学問の一つである。神戸大学医学部生理学講座の岡田安弘教授は長年にわたる脳科学の研究で高い評価を得ておられる。すなわち、神戸大学医学部を卒業後、東京大学脳研究所で神經生理学、アメリカのワシントン大学で神經生化学、西ドイツのマックスプランク脳研究所で神經解剖学の研究をされ、東京都神經科学研究所を経て神戸大学に移られ、総合的な面から脳機能の研究に取組んでおられる。とくに、脳の働きの調節に重要な役割を果たし、精神作用やけいれんなどに対して抑制作用をもつ抑制性神經伝達物質である GABA（ガンマ-アミノ酪酸）の脳内の微細分布とその機能を明らかにし

ることで有名である。また、抑制物質として知られるアデノシンの脳内作用のしくみも明らかにされた。さらに、神經系のエネルギー代謝の研究において、一般に神經細胞は低（無）酸素に弱いと信じられてきた説をくつがえし、神經細胞そのものは低酸素にても、グルコースを供給して低温度を保てば、きわめて長時間生存できることが明らかにし、最近大きな話題となっている脳死判定の問題にも一石を投じ注目されている。本年八月ハンガリーで行われる世界神經科学学会で岡田教授はシンポジウムの招待講演者に選ばれ、そのほか多くの学会活動を通じて、国際的にその活躍が大いに期待されている。

まず農学部系から候補にあがつたのは、神戸大学農学部助教授の安田武司氏で未利用資源の食糧化とニューバイオテクノロジーの一分野である組織培養の研究に対する貢献が期待されている。

工学部系からは、同大学工学部のホープである金田悠紀夫氏と人衛星による観測装置の開発研究に取り組む賀谷信幸氏が候補にあがつた。

医学部系からは昨年も推された岡田安弘教授が GABA（γ-アミノ酪酸）研究を評価され候補に。科学技術部門に於て医・工・農の異なる三分野からそれぞれの研究者とその成果を比較検討するには困難との声も出たが最終的に脳の抑制メカニズムから脳死に及ぶ広範囲の生理学的解明に多大な貢献をした岡田安弘氏に決定した。

尚、来年からは民間企業の基礎研究者も候補の対象に入れ、より開かれた審査会である為にも企業側からの選考委員も出席することとなつた。

- 受賞者メモリアル
1. 櫻井春輔 <岩盤力学>
 2. 杉山武敏 <遺伝子学>
 3. 土田広信 <農芸化学>
 4. 嶋田勝次 <都市計画・建築>
 5. 沢村誠志 <障害者の社会復帰>
 6. 安藤一四 <音響の研究>
 7. 辻 荘一 <家畜育種学>
 8. 西塚泰美 <生理学>
 9. 中岡睦雄 <パワーエレクト>
 10. 清水 晃 <微生物生態学>

●選考経過

社会福祉部門

新しい形の分散型老人ホームを作りあげた

エリヤ会

(セブンスデー・アド
バンヂスト協団)

★選考委員

服部 正

津田 元

野上

文夫

木下淳子さん

▲松陰女子学院大学▽

△神戸新聞社論説委員▽

△兵庫県社会福祉協議会
社会福祉情報センター所長▽



木下淳子さんは、母親が寝たきりになり、やむなく教職を捨てその介護に五年間専念した。これが老人福祉に深い関心をよせるキッカケとなり、以後自ら老人福祉の実践活動へと進んでいった。

アドベンチスト教会は、信徒の

老後問題を把握するためアンケート調査を実施した。その結果は、

①医療が完備したホーム。いざという時に直ちに医者にかかるホーム。②若い世代との交わりが保てるホーム。即ち地域から隔絶されないホーム。③年をとつて体が不自由になつても、常に何かのお役にたちたい。可能なかぎり働く、生きがいに溢れたホーム。この三点が信徒の希望であつた。

この願いを実現する地として選ばれたのが、神戸アドベンチスト

病院のある北区有野台であった。木下さんはこの理想を実現するため神戸の地に飛び降りてきた。

ようやく二階建二十五坪の借家を確保し、これを改造し「エリヤ会有野台センター」の本部が発足したのが昭和五十四年一月であった。十一月には高齢者が自立的生活ができるよう風呂、階段、台所、手摺、ベル、インターホンなど設備の改造をして二名の入居者からスタートした。翌年六月にはさらに家を購入し、同じく改造して二名を受け入れた。こうして順次家を求めて現在は六軒で九名が生活をしている。

エリヤ会の特徴は、有野台センターと病院を中心とした、周辺の一般住宅に老人が分散して数人又は一人づつ住い、地域住民として可

能な限り自立した生活をおくる。いいかえれば施設ケアと在宅ケアを統合したもので全く新しい地域分散型ホームで、二十一世紀の高齢者福祉のあり方を模索したものとして全国的に注目されている。

エリヤ会は教会の信徒を中心にして活動してきたものであるが、現在は地域との交流、ボランティアの協力、民生委員など福祉団体の理解も得られるほど活動が広がってきた。これからはミニ特養、ショートステイ、路問看護事業へと意欲をもつて進めている。木下さんはその推進役として活動している。

△野上文夫▽

●選考経過

候補として次の団体があがつた。高齢者がともに地域で自立できるよう、分散型老人ホームという新しい形式を生みだした「エリヤ会」(セブンスデー・アドベンチスト教団・代表高木謙三氏)、長年に亘つて地道な活動を続けてきた「誕生日ありがとう運動」、「神戸ライフケア協会」、市民福祉奨励賞を受賞した「老人給食会」。15年間に亘つて活動を続けてきた「兵庫ボランティア協会」。後天性難聴者のための要約筆記や、邦画の字幕を作った「OHPこうべ」、「老人看護グループ一ロラ」

が、市内の他の老人の看護をす
る。27年間活動を続けてきた、

老人の野外活動のボランティア

の「あおぞらグループ」等が候

OHPこうべ (オーバー・ヘッド・プロ ジエクターこうべ)

服部 正 津田 元

野上 文夫

△松陰女子学院大学
△神戸新聞論説委員
△兵庫県社会福祉協議会
△社会福祉センター所長



●受賞者メモリアル
四郎 延子「会の幸子男学園大学」
妻樹 幸子「神戸ア」
春富 寛子「東実太郎」
福来 煙「神戸東部地域委員会」
小畑 実太郎「神戸市役所」
春富 寛子「神戸市役所」

と、動機を語る。協力者も次第に
車馬のように元気で働けたおかげ
で家に余裕ができた恩返しにと
と、勤めを始めた。協力者も次第に
増え会員の半数は主婦、OL、学
生、定年退職者もいる。

翌年、十五人でグループを結成
練習のための消もろ品がグループ
の負担になると、公的負担はいっさいない。
それでも休日返上で飛び回る。
各地に同じ志の仲間が増えて
いた。十月には神戸で全国要約筆記
者大会がある。

「聴覚障害児」の記録映画も手が
けている。かれこれ二年になるが
グループはいま、大阪、京都と同
じように映画館で上映できないも
のだ。また、
ほかに「天然ガス」のPR映画
は、市役所を開設した。市難聴
者協会の役員会、例会、市身体障
害者連合会、全国難聴者協会連合
会などの行事に参加する。個人的
活動もちろんある。

梶原さんはサラリーマンで、馬
鹿の如きが、市役所を開設した。
全国各地に同じ志の仲間が増えて
いた。十月には神戸で全国要約筆記
者大会がある。

△津田元

（尼崎市）は、60才以上の老人
が、市内の他の老人の看護をす
る。27年間活動を続けてきた、
老人の野外活動のボランティア
の「あおぞらグループ」等が候
補に上がったが、大変ユニーク
で、老人ホームの新しい形態を
生みだした「エリア会」に決定
した。

地域活動部門

全国の文化センターの
草分けとして30周年

神戸新聞

文化センター



★選考委員
一谷 定之丞 今井 仙三
△園田学園理事長▽丸山地区住民自治会議会会長
長島 晴雄

△前神戸新聞監査役▽

町を歩けば文化センターにぶつかる。そんな時代になっている。

公営、民営ある中で、神戸新聞文化センター（KCC）は、全国でももつとも早い。文化センターの草分けである。

発足したのが、昭和三十二年十一月一日だから、ことしでちょうど三十周年になる。「地域社会の発展と福祉の向上につくす」ことを始めたもの。

全国から多くの地方紙が見学にきて、これをモデルに文化センターを始めた。あとからできたものが、みな株式会社であるのに対し、KCCが社団法人であるのも珍らしい。

神戸本部のはかに、姫路、明舞、

鈴蘭台などに支部あり。全部合わせると、四百を超える講座がある。教室での講座だけでなく、異動講座やサロン、ゴルフ、テニス、水泳、乗馬など、野外の教室、歴史、文学、味覚などの特別講座あり。年間事業は千五百に及ぶ。会員は、二歳から八十歳まで。延べ八万三千人。

最近は、外人の会員が目立つてきただのも神戸らしい。

また、海外に文化使節団を派遣している文化センターは、KCCだけだろう。五十八年に米国、六年にはオーストラリアに派遣し、文化交流、友好親善の役割を果たしている。三十周年を機会にいつそうの発展を期待したい。

△長島晴雄▽

●選考経過
地域活動と言つても、その内容は様々である。警察が地域社会のために貢献することを、職務という観点からではなく評価すれば、兵庫県警山口組特別集中取締本部の市民への貢献度は、充分に評価に価するだろう。

公害病に積極的に取り組み又、地域医療のネットワーク化を図った尼崎市医師会も候補に挙げられた。個人では、神戸市内の婦人会などで民踊の指導に当たっている黒石紫月氏の名が挙げられた。

そういう中で特に目を引いたのが社団法人神戸新聞文化センター（KCC）。全国の文化センターの草分けとしてスタートし、今年満30周年を迎えた。一般的な教養・実用講座のみならず、4年前からは海外への文化使節団派遣の実施、全国の文化センターの先駆者として、今なお新しい試みに取り組んでいる姿勢が評価され、満場一致で受賞が決定した。

- 受賞者メモリアル
- 1. 城崎郡日高町
- 2. 明石市民のコミュニティ活動
- 3. 一宮町文化協会
- 4. 尼崎郷土史研究会
- 5. 尻池南部地区自治連合協議会
- 6. 月刊神戸っ子
- 7. 明延ふるさとづくりの会
- 8. KICS
- 9. 丸山地区住民自治協議会
- 10. アンドレ・ブリューネ

■第11回井植文化賞

山崎 進 稲継 文彦
（ラジオ関西拂代表）
〈取材役〉
△前NHK神戸放送
申込「新規企画競演会」

最近のテレビ・ラジオは、情報番組が全盛である。テンポアップした時代の要請もあってか話題転換の早い番組づくりが目だつ。とくに朝のワイド番組にその傾向が強い。こういう中で、ラジオ関西の「スタジオTODAYホットに語ろう!」は、毎朝(月~金10:15~11:30)二人のホストが一人のゲストと一緒に十五分にわたってじっくりと語り合うユニークなトーク番組である。

核問題をすぐれた構成と適切なキャスティングによって平易で身近なかなトーク番組としたことが評価された。

これは、この番組の基本的な特徴で、さまざまなテーマに沿ってふさわしいゲストを選び、ホスト役の西条遊兒・笑児の二人が、ソフトな親しみ易い語り口でじっくりと話をひき出す。時間がたつほどありるのでゲストもかみくだいて十分に話を展開できる。構成が十分に感じさせない。

昭和五十四年以来生放送で送りつづけて八年、ゲストは延べ二千人を越えたという。この間、「ジョン・ウェインはなぜ死んだか」の著者・広瀬隆氏を招いた五十九年十一月九日放送の「核の時代に人間は」が放送批評懇談会のギャラクシー賞選奨を受けた。難解な

情報量の多いワイド番組もラジオの特性を生かしたものだが、この番組の時間帯の主な視聴者である主婦の間には、最近、放送に知識の提供を求める傾向が強くな

すぐれた構成と司会で
聴取者の要請に応えた
スタジオTODYA
ホットに語ろう！

的効果も話題性がある。
一方放送においては、ラジオ
関西のトーク番組「スタジオT
O DAYホットに語ろう!」が
挙がった。毎回多彩なゲストを
招いて今年で8年目に入る同番
組は、昨今のトーク番組ブーム
の火付け役としても評価が高
い。

- 受賞者メモリアル

 - 「あなたの愛の手を」
 - 神戸空襲を記録する会
 - 落合 重信 4. 春木 一夫
 - 「兵庫探検」「兵庫史を歩く」
 - 日本経済新聞社神戸支社* 神戸の中堅150社*
 - 神戸新聞淡路総局「淡路祭事記」
 - ラジオ関西日中友好番組
「神戸からこんにちわ」
「天津からこんにちわ」
 - 神奈越郷「蜂相記」
 - 「私たちの昭和史」

■第11回井植文化賞

●選考経過

これまでの五部門のほかに、今回から新たに「国際交流部門」が設けられ、たくさんの候補が挙げられた。

ドイツ語の普及、日独文化の交流に尽くした

加藤一郎

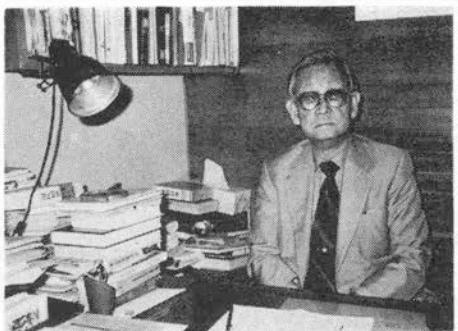
★参考委員

新野幸次郎

長島 隆
△神戸大学教授
△兵庫県国際交流課長

小笠原 晓

宇都宮 浩
△神戸地下街㈱副社長
△兵庫県国際交流課長



加藤一郎先生は、神戸日独協会が昭和二十九年に創設されて以来、当時の市長原口忠次郎会長の下に副会長に就任、爾来副会長二十年、そのあと昨年まで十年間会長、昨年九月以降は名誉会長として一筋に日独交流に尽してこられた。それもあって神戸日独協会は現在、会員約四百名にもなり、活動的な活動を続いている。

千冊に及ぶ図書室長として日独文化の交流に努められた。

ドイツ語とドイツ文化の普及といえれば、先生は昭和四年京都帝大文学部卒業後直ちに神戸経済大学講師に就任以来、今まで五十年間に亘って神戸大学、甲南大学に情熱を捧げてこられた加藤一郎先生は、その周りに先生を慕う厚い人脈を形成され、その総べての人達をいつの間にか日独交流の輪の中に抱きこんでおられる。井植文化賞にこのたび新しく国際交流部門が設けられ、その最初の受賞者市神戸の誇りでもある。

もつとも、これだけなら昭和三十年五月ドイツ連邦共和国から「第一級功労十字章」を受賞されることもあるいはなかったかもしれない。加藤先生はこの間三十年間に亘って協会でドイツ語講座を開講され、実に多数の市民にドイツ語とドイツ文化を教えてこられた。さらに先生は協会創立以来、ドイツ図書室の充実に努められ五

△新野幸次郎▽

続いて神戸大学医学研究交流センターが、外国人の医学論文博士の制度を確立し、外国人の間では「ロンバク」という言葉も生まれた。最後に、昨年県公館でシンポジウムを開き評議を呼んだ汎太平洋フォーラム。今秋また、汎太平洋地域、途上国との技術と学術交流についての活発な国際シンポジウムを開く。結局は全員一致で日独協会の加藤一郎氏に。30年間副会長、会長としてドイツ語、ドイツ文化、翻訳に尽力した点が評価された。



神戸の海に 活字が浮かぶ 大林宣彦さん

映画監督

1938年尾道市生まれ。幼少の頃より映像の魔力に取り付かれ、成城大学在学中より自主製作作品を撮り始める。77年「ハウス」で一般映画を初監督。それ以後、山口百恵、原田知世等の主演作や尾道3部作等の傑作を次々に世に送りだしている。

いま、神戸の街を舞台にした、一本の映画が公開されている。SFXを駆使した、その映画「漂流教室」を監督したのが大林宣彦監督。尾道を舞台にした「時をかける少女」「転校生」「さびしひんぼう」の、俗に言う「尾道3部作」を筆頭に、今、若者にもっとも支持されている監督である。

——模写かずお氏の描かれた原作では、舞台は東京だと思ふんですが、それを何故、敢えて神戸にされたのでしょうか。

「原作は、もう15年前に描かれたものですが、それを15年後に映画化するわけですから、単に原作を映画化するだけではなく、どう原作と再び出会うかということが、あるわけですね。原作は漫画で『絵』なわけですから、絵をなぞると、一番、似てあらざるものになってしまふわけです。模写さんが何故、ああいう恐い絵で恐い漫画を描かれるかというと、自分がお持ちになっているテーマを、どう面白く簡単に伝えるかという漫画的手段として、ああいう絵が存在するわけですね。しかば、そのテーマは何であるかというと、『子供達は地球の未来とは、つまり、我々にとっては未来だけれども、子供達にとつては、そこそこが今日なんだ。そういう意味で、

——尾道出身で、尾道3部作等を撮られているわけですが、神戸と尾道と通じる部分があるように思えるんですけど、

「そうですね。やっぱり、僕は街のどこからでも海が観

未来に住みついた子供達の、今日を自分達で創る物語である。そうなりますと、そのテーマを映画で描くとすれば、当然、映画の持つ魅力で描かなくてはいけない。そして、地球的規模の話であるとすると、もう日本人の子供達だけではない。つまりあらゆる民族の子供達だろう。そういうことから、インターナショナルスクールという設定がなされたわけです。しかも、インターナショナルスクールだけれども、間違うことなく日本人の僕達が構想し、日本人の僕達が作る映画だから、舞台は日本がいい。で、日本にあってインターナショナルスクールが似合う場所は何处かと。まあ、東京・横浜といふのは勿論、考えられるわけですけれども、それでは、ちょっと現実的すぎる。それならば、そういうものの似合う風景として、神戸がよからう、ということになったわけです。それで、神戸にあるカナディアン・スクールを実際に見せて頂いて、絵になる、物語がよく似合う構成を持っている街である。それから、たまたま、監督としての僕の想いとして、ちょっと、この神戸で映画を撮ってみたいという想いがありましたので、ここで一気に、じゃ撮ってやろうと。」

える街というのが大好きでしてね。と言いますのは海というものは、海の向こうに憧がれますよね。異国の物語に憧がれると言おうか、遙かな所にある自分の想いにあがれるといおうか。やっぱり、海を見て育っていますから、何が海が見えるとホッとしますんですよ。」

——監督は、神戸の街をどのように感じていらっしゃいますか。

「尾道において、異国の港町に憧がれていたんですよ。つまり、その頃はマルセイユであるとか、絵本の中にある港町。子供の頃見た、絵本の中の港町みたいですねえ、神戸は。だから、日本のというよりも、何か物語の中にいる見知らぬ街の、だけど、いつか絵本の中で会ったことがある港町という感じで。僕にとっては、まさに、物語そのものという感じがしますね。だから、本当に

に随分前から、コマーシャルを撮りに来たりもしましたしね。今度の映画でも、未来に行ってしまう話ですか、現代の部分というのは、ほとんど映画の冒頭にしかないんですけども、やっぱりそこに、一つの神戸の街の想いを撮りたいなと思ったんですから。それで神戸の街に設定したんです。それと久坂葉子が好きで、一度映画にしたいなと思っています。僕にとっての尾道が、僕という『さびしんぼう』少年が住む街であったわけですね。そして、その『さびしんぼう』少年が憧がれる、見知らぬ異国の、ベレー帽の似合う少女が住む街というと神戸という感じがしました。イメージとして尾道が半ズボン。神戸がスカートという感じ。」

——監督の作品からは、何となく神戸の臭いが感じられるよう思うんですけれど。

「僕の撮った尾道は、リアリズム

の尾道じゃないですから。自分の中の物語を映画にしていますから。そういった意味で、まさに尾道と神戸ってのは、僕にとっては絵本のこちら側とむこう側といった感じで。ですから、神戸の風景を見てますと、海の上に活字が浮かんでくるんですよ。物語が。余白に活字が。いつか神戸で本格的に久坂葉子伝というのを撮つてみたいと願っているんですけれどね。摩耶のターブルカーに乗った時あの傾斜に『ものぐるおしさ』を感じました。見た目は絵画的ですけれど、非常に文学的な街ですね神戸は。」



「神戸は“ものぐるおしい”街ですね」と語る大林宣彦監督

■ 大林監督演出「ミスティーナイト」8／21・22 ブラザホテル。夏の夜、ホテルブ
ラザは推理ドラマの舞台になる。

晴しい劇場のあるところにいるんだから惜みなく、フル回転させていただきたい。

植田 僕は日本物が好きで、もともと洋物を書くつもりもなかつた。尾上松緑さんと僕は日本物の仕事をずっとやっていたのが、長谷川一夫さんが宝塚で演出をされる時に違う路線をということで無理やりやった洋物が、今まで続

長を演らしていただいて「やつたあ」と思ったのはあれが最初です。ああいう役が好きなんですね。

「祝いまんだら」のドラ猫ニヤンコとか「我が愛は山の彼方」の地方公演のチャムガも印象的でした

し「レビューエンターテイメント」「別離の肖像」多いんです。朝香 お稽古の時先生は何もおっしゃらないから…。



今からが勝負！頑張ります

いている(笑)。

朝香 「愛あれば命は永遠に」「夜明けの序曲」「海鳴り」もののふの詩が「白夜わが愛」「風と共に去りぬ」だんだん年代が下がって(笑)。「ベルサイユのバラⅢ」の東京公演、と先生の作品にはたくさん出ているんです。

日向 「ベルバラⅢ」が初舞台で支倉常 「海鳴り」の新人公演で宝塚常

日向 それが怖い(笑)。言われなければ言われないほどグサグサと来る。何か言つてもらえるまで、

何か考えなきやとか、自分でつてもらわなければいけないけれど、役を与えられてから悩むのではなく、舞台人にとっても作者にしてはなく、舞台人にしては作者としても、24時間勉強ですから、そういう心構えで見ればすべてが変わつてくる。舞台は一人では出来ないんだから、そういう人間的なものを磨いて、もう一度心構えを自分で決めてやっていくて欲しい。

植田 自分で考える訓練が大事だと思う。「ベルバラ」までは、宝

塚の卒業生が映画なり舞台をやる必ず宝塚調だと言われた。それも悪い意味で。宝塚が何だ、というのを見の方の主観だから構わないんですけど、宝塚だから許してやろう、という見方をされると一番腹が立つ。他の舞台、ジャンルと常にレベルを同じにしておかないといけない。宝塚は別物だという演劇界のムードを取り払つていいたいと思ったから、自分たちで考える形にしていった。顔をみればまだ探つてあるな、とか、家に帰つてもう一度やりそうだ、といふのはわかりますから。そりや、すぐ遊びに行きたそうだな、といふのは揉んでやろうと思いますけどね(笑)。僕が考えつかなかつたことをやることがある。それは、生活が違うから。本人の心の中から湧いてきているから、その方が本物だし、見る方の心を打つと思う。

二人ともこれからますます頑張つてもらわなければいけないけれど、役を与えられてから悩むのではなく、舞台人にとっても作者としても、24時間勉強ですから、そういう心構えで見ればすべてが変わつてくる。舞台は一人では出来ないんだから、そういう人間的なものを磨いて、もう一度心構えを自分で決めてやっていくて欲しい。

(87・7・13・カラベルにて)

●この秋 KOBE発!

1

特集★
Kobeの
カルチャー



オペラの本場ウィーン 歌劇団の魔笛。

神戸で
オペラ

△第7回—神戸秋の芸術祭▽

(神戸芸術協会
会長)

(一) 関西二期会
常任理事

浜崎加代子

KA
OL
BA
E 代表 I

梅田正己
中村茂隆

(神戸芸術協会
会長)

小林慶成

(常任理事二期会) 浜崎

加代子
KA
OBA
E代
表

都市宣言をいたしまして、人間のすべてを含むようなファッショングラハは非常に神戸にふさわしいのではないかと思っております。

梅田先生の「ブイガロの結婚」からスタートいたしますが、いかがでしようか。

判るオペラ”という目標で広く草の根運動的に、みなさんに見ていただけるように活動しています。秋の芸術祭で林光先生の新作“スカルト”をはいたジャンヌ・ダルク”を初演します。平均年齢26歳の若いパワーで、意欲的に取組みたいと思っています。演出を東京

梅田 3ヵ月余りの間に4つのオペラを上演することは、画期的な試みだけに、大変だなと思っております。これを何とかやりとげ

て、神戸にオペラの根が生えます
ように頑張りたい。

をお迎えます(ニセセイオヘテ教室)のうちの一日間を、一般公演という形で参加いたします。

の場合は自主公演ですね。

浜崎 第4回の自主公演です。結成7年目の若いグルーピングなんです

戸倉 今年で秋の芸術祭も7回目を迎えるわけですが、今回は歌劇がこの期間中に4つも上演される、神戸ではかつてない試みとなるわけです。そこで今日は、抱負ですとか、これからのお盆のオペラの見通しなどを語っていただきたいと思います。よく言われますのが、オペラは総合芸術であります。神戸市は昭和48年にファーヴィション



梅田 正己 さん

梅田 観せてやるという姿勢ではダメですね。「観てもらいたい」、そして「観たい」というお客様がいる、こういうオペラに持っていくべきなればならない。最近の傾向で、聴覚と視覚の同居人間が増えています。

のは常に限られてますから、観客
動員が非常にむつかしいわけです
私の作品は歌舞伎が題材ですから
歌舞伎がオペラになったらどうな
るんだ、というような興味で年輩
の方が観にこられました。特殊な
オペラファンだけを狙っていると
市場が重なり合いますから、オペ
ラを観たことはないが、そういう
題材だったら見てみよう、という
層を、神戸市を中心に広げていき
たいと思っています。



浜崎加代子 さん



中村 茂隆 さん

そのキャップを埋めていく。オペラと聞いて二の足を踏むお客様に、何とか会場に運んでいただくなれば、工夫が必要ですね。

ている。その意味において、舞台志向が出てきていると思います。ですからここで、神戸にオペラの花を咲かせたい。



小林 廣成 さん

中村りつばなオペラの作品はたくさんありますから、これ以上創つても仕方ないんじやないかと、僕自身思うんです(笑)。ただ日本語で日本のメロディーに載せて歌うと翻訳ものにはないものがある。この間、詩人の方の詩に曲をつけて歌う会をやったんですが

は、と思ひます。それと広く目に触れるということ、早くに知つてれば行きたかったという方もいらっしゃるんですから、P.R.の方もアイデアを出していかなければいけませんね。

う拒絶反応を取り除いて、わたしでもわかるな、という部分を持つていただける会が増えてくるといいんじゃないかと思います。私たちのグループは、年に2回ぐらいファミリーコンサートをやっていますが、そういう小さいコンサートの中から、みなさんが好きなホールに行つたらどんな素敵なものオペラがあるかな、という気になつていただけて、それで劇場へ足を運んでいただけるようになれ



弓倉 恒雄 さん

まず詩人の方が、音がつくとこんなに変わると驚かれる。オペラでは言葉が音になる。それがバルエなどの素材が入って視覚的な形になって、と膨んでいくわけです。

そういうことをもっと知つて欲しいな、と思いますね。いま、ミュージカルの時代になつてきている

わけですが、踊り、演出、芝居は素晴らしいが、歌がヘタでしよう（笑）。逆にオペラは、歌の部分で成立しているんですから。そこへ演劇的要素がキチッと出来上がる、ということを考えていかなけばいけない。私はオペラにこだわらないで、音楽を加味した、歌芝居というか、ミュージカルも含めて、トータルな表現が盛んになつていかなければいけないです。

神戸には小さなホールがいくつもありますから、500人でも、100人でも、ピアノ一台があつたら成り立つ舞台を考えていかなければなりません。

浜崎 私たちがこれまでやつきましたピアノ一台と箱二つがあつたら出来るといふ林光先生のオペラの場合、オペラって、こんな身近なもので出来るかっていうお客様のストレートな反応が一番多いですね。

自然というのがなくなつてきているんです。イタリアオペラ系統のものはまだまだ異和感がありお客様にはつらいでしょうね。

梅田 言葉がわからないと、筋がわかりませんから、笑いが出てこない。そこが大きな問題点です。

中村 歌うためにデフォルメしている部分が、初めて聞いた方には非常におかしくうつる。普通に歌える言葉を、われわれがもっと研究しなければいけない。

梅田 神戸の場合、地元でオペラがあり創られなかつたものですから衣裳とか舞台の面でまだまだ不十分です。ですから、このオペラシリーズを機会に盛り上げて地元の芸術集団の汗、臭いのあるオペラと見て、東京のもの、海外のものに対抗していく必要があります。テレビでは味わえない生の良さ。こういうものがあつてもいいと思います。

弓倉 かつては、日本人の歌手では歌えない歌曲もあったものが、テクニックの面でのハンディがなくなってきた。そういう意味でもオペラは身近なものになつておりますしね。

梅田 オペラのマリアというのは英語の“Air”、空気なんですね。そしてオペラ歌手のエネルギー源

は肉なんですね。空気が良くて、ステーキがおいしく、ファッシュンが素晴らしい神戸は、オペラにうつつけの地であると思います。

小林 洗練されたセンスが、クラシックを聞くセンスにつながりますからね。

梅田 労音時代というのは、国際ステージサービスで舞台を作つて西の方へ持つていった歴史があるんです。つまり、神戸は西のオペラの本拠であった。東の帝劇、西の聚楽館といわれていた時代があつて、大正時代に、イタリアオペラが上演されているんですね。ですからもう一度、神戸にオペラ、バレエ、演劇を含めた劇場が欲しいですね。

小林 シーズン制になるといいますね。そのシーズンになつたらオペラが見れる、という形で定着しているといいですね。

中村 大阪が近すぎるために、なかなか育たなかつた部分があつたわけですが、スタッフ、キヤストとともにちょっと頑張れば出来ることがありますから。

弓倉 今回のオペラの試みが成功して、これをきっかけにオペラ、ひいては音楽の爱好者が増える形になつて欲しいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

小林 訳詩の問題があるんですけど、モーツアルトのものは、だいぶ練れてきて日本人が歌つても不

第7回 神戸秋の芸術祭——神戸でオペラを——

「フィガロの結婚」

10月8日(木)18時15分

9日(金)18時15分

神戸文化大ホール

S ¥5000 A ¥4000 B ¥3000

(A・B券は当日座席引換)

総監督 畑中 良輔 振付 貞松 融

指揮 岩淵龍太郎 制作 梅田 正巳

演出 西澤 敬一

合唱 フィガロ合唱団

チェンバロ 小梶由美子

管弦楽 神戸室内合奏団

「魔笛」

11月3日(祭)14時

神戸文化大ホール

¥3000

指揮 岡田 司

演出 鈴木 敬介

合唱 関西二期会

演奏 京都市交響楽団

「スカートをはいたジャンヌダルク」

11月13日(金)19時

14日(土)18時

神戸文化中ホール

¥3000

台本・演出 加藤 直

作曲 林 光

制作 ALA DI KOBE
演出

「信太妻」

12月1日(火)19時

2日(水)19時

神戸文化中ホール

¥3000

台本 かたおかしろう

作曲 中村 茂隆

演出 茂山千之丞

指揮 斎田 好男

演奏 神戸フィルハーモニック



佐本 道 さん



夏目 俊二 さん



特集★
Kobeの
カルチャー

2

この秋。北野町発

インターナショナルに
北野ミュージカルが開幕する

英國館・展望塔の家館長　團べアーズ取締役社長

ローズガーデンオーナー

ステイブ

不諳今

夏目 横

エ ット
俊二 三浦 明定

輔役

地
由紹

関西タイムアウト

四二

ノラウン

佐本

進 浅木 隆子

小曾根 実

松永幸子

小泉美喜子

を根本にしたものでね戸でないけれど
ばできないものを、地域ぐるみで
やりたいとずっと思っていたもの
ですから、『異人館が舞台』という
のはまさにピッタリなんです。そ
して俳優さんの方も実際に外国人
の方に出てもらわなくては意味が
ないのではないかと……。今まで
私達はよく金髪のかつらをかぶつ
たりもしたのですが、どうも様に
ならない（笑）。

夏目 「格の館」はそもそもミスティリーで、戦後焼け残つた異人館に日本人のメイドとして住みこんだ女性の一生を描いたものなんですね。私は以前から、せっかく神戸でミュージカルをするなら、神戸を要素にこなつて申しますよ」とねじ

小泉 陳舜臣先生原作の「櫻の節」をアレンジしたミュージカルが劇団神戸によつて、今秋北野クラブで上演されます。今日は夏目さんと北野界隈の方々にお集まり頂き、北野ミュージカルへの思いを語つて頂きたいと思ひます。

モモリマシテ
おもじこし企画た
し、スケジュールさえ合えばうま
く行くと思いますね。

ブラン 私は西宮在住で、短大
の講師をしているのですが、今回
の試みは大興味があり単に外国人
人と日本人がミュージカルをする
というだけでなく、ストーリーも
外国人に関係があるということが
興味深い。国際化という事も随分
言われていますし、もしロンググラ

それで松永さんにご相談したところキツツ（キンキ・インター・ショナル・ドラマティック・ソサエティ）のメンバーが阪神間に多くいらっしゃると。そうだったたら何とか盛り上がって行くんじゃないかな。今日はさつそくメンバーの一人、ブラウンさんにも来て頂き、うれしく思っております。



スティーブン
ブラウンさん



松永 幸子さん



若山 晴洋さん



小曾根 実さん



菊地 由紀さん



浅木 隆子さん



三浦 明定さん

ンになったとしたらとてもうれしい。

小泉 上演を北野クラブでということなんですが浅木さん、今春か

ら北野クラブはナイトクラブが、イベン

トホールへ変身したのでふさわしい企画ですね。

浅木ええ。そういう意味でもこ

の話は楽しみなんです。脚本も拝見ましたが、私達の知らない時代も含めてこの町の思い出みた

いなものが込められているなあ

と。若い方も大人の方も、ここで北野町の楽しい雰囲気を味わつて頂けたら最高です。

夏目 新しもん好きの神戸で、神戸が発祥というものはたくさんあるのに、芝居が定着している部分でいうのは非常に少ない。ファッショントリック、食べものなど全部揃っているのに、文化についてはすごく遅れてる気がする……。

小曾根 確かに。神戸というは元々ロングランが全然ダメな所という鉄則みたいなものがあつてね。どうしてなのかぼく達にも分らないんだ。冷たいのかな。実は先日夏目先生の方から、北野ミニージカルの音楽を担当するようになされたばかりで、具体的な曲づくりはまだ始めていない。一つ不安なのは、やるからには生で演奏したいんですが、スケジュール的にどうかという点ね。録音でする

のとは全然迫力が違うから。

小泉 今回のこの試み、北野町の商業者の中でも、お芝居とい

うのは商業に与えるインパクトがすごく大きいんですね。外国のど

この土地へ行つても、大きな劇場のそばには素敵なレストランがあ

る。お芝居と共に、食文化が非常に成熟している。北野町で佐本先生がシアターボシュットを作られ

た時は一つの衝撃だった。そして今度夏目先生の企画をお聞きして

思い出したのはニューヨーク。あ

の大都市が破産して破滅状態になつた時、再生するのに何を売った

かと言うと実はお芝居だった。世界の大都市と言われたニューヨー

クを救つたのはミュージカルだつたんです。そういう意味で、北野町をいい形で救つて頂く、もうひと回り大きくして頂くにはお芝居が一つの演出の手だてだと思って

います。

若山 文化的なものを大切にするというか、育て上げようとする匂いだけでも、我々商業者としても大切にしてほしいと感じています。

特にファッショントリートを主催している立場からしてもファッショントリックの後ろにアートがないファンションなんて——という意味

で、手作りのそういうおもしろい

試みは楽しみですね。キツツのメンバーはイギリスの方が多いらしいけど、そもそもミュージカルの本場はアメリカでなくロンドンなんですよ。まあ大きな催しは東京や大阪にまかせておいて、神戸では地元の人達で作り上げていく、せっかく外国人も多い土地柄なんですから、そういう点で神戸は頑張るべきですよね。

菊地 随分昔になりますが、この「桜の館」が発刊された時、すぐには読んだ記憶があります。北野町でこういう新しい企画を行うのはすごくうれしいことですね。うちも異人館俱楽部パートIIのパラディームで毎週金曜の夜、名画劇場をやっているんです。まだ招待客だけで一般の方までは無理な状態なんですが、なかなか評判が良くてね。時間も遅くからですから仕事の帰りとか、主婦の方とか来て頂けますし。この目的は、北野町は文化的なものが少なかつたでしょう。異人館があつて、ファッショビルがあるわけだけど、本当の文化はまだ流れていらない町なんです。小さいけれど、手作りでやって行けるのが神戸の魅力だと思いますね。逆に言えばキメの細かいことが出来るという。これがきっかけに、北野町も経営者や住人が共鳴してミュージカルだけでなく、文化全般をバックアップ

していかなければいけないと思いますね。文化ホールや国際会館もあるけど、思ったように神戸は人が入らない。案外神戸の人は文化については、まだまだ遅れてると思っています。

モダニズムの開化した発祥地なんだし、もっと西洋文化を取り入れ、消化し、理解し、感じることが大事だと思います。

小曾根 しかし、やるとなつたら全国的スケールでやつた方がいい、神戸だからって、せせこましく手作りにしなくなつたっていいと思います。神戸で大きなことをしてももちろんいいと思うし。それよりもぼくが一番感じているのは、日本の劇団は何で外国のばかりを上演するのかつてこと。結局アメリカから渡つて来たものを日本でアレンジして上演するわけ

夏目 実際、昭和39年に陳先生が

この小説を書かれた中に“異人館への墓記銘”だとありますよ。当時異人館は観光名所でも何でもなく亡びてゆくものとして、そういう認識の上でお書きになられたものなんです。

何はどうもあれ、この北野ミュージカル第一号「桜の館」はオール地元で、原作から音楽から、出演者は外国人を交えてと全部神戸にゆかりのある方々だけだと思っております。インター・ナショナルな完全神戸オリジナルというものを創り上げたいと思いますのでぜひ協力下さい。

△北野クラブにて▽

の中に幾つかあって、自由にセレクト出来る環境でない。

小泉 そういう意味で、神戸とい

うのはサイズ的にちょうど良いで

すね。それに北野シアーブロム

ナードなんてステキですね。

佐本 結局北野町のシンボルは異人館なんです。陳先生の作品は、

異人館に対する鎮魂歌だと思

うです。ぼくは常々、北野町は門前

町の様な気がしていた。ご本体は

異人館、参拝者は観光客（笑）。

と考えた場合、欠けているのが奉

納業。神様を讃えるものがないん

です。それがミュージカル、文化

だと思う。

佐本 今度できる新神戸のニュー

オリエンタルホテルの中にもシア

ターがあるらしいし、神戸外国人

俱楽部にかけて“シアタープロム

ナード”みたいなものが出来たら

最高ですね。劇場というのは、一

経済ポケット ジャーナル

★神戸の基幹産業に

新世代社長誕生

戸製鋼所と太陽神戸銀行に
それぞれ、神戸出身の新社
長・新頭取が誕生した。

6月26日の株主総会で選



松下 康雄氏

亀高 素吉氏

新社長と

取は

れた

出さ

れた

新社

長と

松下

新頭

長と

松下